

## 平成 2 1 年度第 4 回石狩市浜益区地域協議会議事録

日 時：平成 2 1 年 9 月 2 5 日（金） 1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 3 0

場 所：浜益支所 2 階庁議室

資 料：会議次第

資料 1：浜益区地域協議会第 2 期 2 年間の総括について【実績・評価・課題など】

資料 2：地域協議会第 3 期目における検討事項（案）

地域協議会だより VOL.40 ・ VOL.41

= 会議次第 =

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
  - 1) 第 2 期 2 年間の総括について
  - 2) 第 3 期への引継ぎ事項について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役 職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会 長	神田 一昭		(支所) 区長	宮田 勉
副会長	岸本 教範		(支所) 部長	赤間 聖司
委 員	羽山 勇一		(支所) 地域振興課長	渡邊 隆之
委 員	河上 干城		(支所) 管理課長	佐々木政人
委 員	北村 文子		(支所) 保健福祉担当課長、はまます保育園長、 浜益国民健康保険診療所庶務課長	木村 新吾
委 員	中村 東伍			新井 春生
委 員	菊地 政雄		(教育委員会) 浜益生涯学習課長	小島 工
委 員	渡邊 千秋		(支所) 地域振興課地域振興担当主査	藤巻 誠一
委 員	白井かの子		(支所) 地域振興課地域振興担当主任	菅原 学
委 員	石橋ミツ子		(本庁) 企画経済部企画調整課企画調整担当主任	
委 員	三浦 信悦			
委 員	田中 照子			
委 員	木村 武彦			
委 員	佐々木茂雄			
委 員	寺山 広司			

傍聴人：0 人

### 1 開 会

#### 【支所：渡邊課長】

皆様、本日は大変お忙しいところをお集まりいただきまして誠にありがとうございます。只今から平成 2 1 年度第 4 回浜益区地域協議会を開催いたしたいと思っております。本日は、岸本副会長、羽山委員、河上委員、中村委員、菊地委員、木村委員、寺山委員におかれましては、所用のため欠席する旨の連絡をいただいております。本会議は協議会協議書第 9 条第 2 項の規定に基づきまして、出席委員が過半数に達しておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。本日の協議会終了時間ですが、午後 5 時 1 5 分頃を予定しております。それでは、開会に当たりまして神田会長よりご挨拶をお願いいたします。

### 2 あいさつ

### 【神田会長】

皆さん、こんにちは。何かとお忙しい中、協議会に参加していただきまして本当にありがとうございます。早いもので我々メンバー、平成19年10月から今月の30日まで第2回目の地域協議会の委員として、色々と活動してまいりましたけれども、2年間の任期が早過ぎようとしております。皆様にはその間、色々ご協議をいただきまして本当にありがとうございます。そういう意味で今日、議題にありますけれども、第2期2年間の総括、それから3期目における検討事項を今日、協議していただきたいと思っております。短時間ではありますが有意義な会合にしたいと思っておりますので、ご協力をよろしく願いいたします。

### 【支所：渡邊課長】

ありがとうございました。続きまして、宮田区長よりご挨拶をお願いいたします。

### 【支所：宮田区長】

皆様ご苦勞様でございます。2期目最後の地域協議会の開催に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。秋晴れが続きます皆様には大変お忙しい中、こうしてお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

国と地方の財政の悪化、それから小規模自治体のあり方を巡る議論、そういうものを背景といたしまして3市村の合併から早4年が経過いたしました。これまで2期4年間、それから1期2年間という方もありますが、地域浜益区の発展のためにご尽力をいただきました地域協議会委員皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。顧みますと合併により創設された地域自治区制度そのものが新しかったこともあり、私共を始め委員皆様におかれましてモデルも前例もない中で、正に手探りの中で、石狩市浜益区のスタートであったと思っております。その様な困難な状況にあって常に真剣に議論を重ねられ、区の抱える諸課題の解決に前向きに取り組んでいただきました。おかげさまで地域振興事業を始め多くの事業が予算化されて実現を見ております。しかし、一方では人口減少傾向が顕著となり、地域力の低下が益々懸念されております。地域自治区は10年の設置が既に決まっております、これまでの4年を踏まえ、残る6年をより実効性のあるものにしていかなければならないと考えております。今日は、この2年間の総括と区の目指すべき方向と課題をより明確にしながら、3期目にスムーズな移行がなされる様よろしく願いいたします。

終わりとなりますが、私、任期2年を終え9月30日をもって区長を退任することとなりました。村職員時代から40年6ヶ月、皆様を始め区民の皆様にも一方ならぬご支援をいただきました。改めてお礼を申し上げます。2年前区長に就任しましたが、この間、住民の要望に応えきれなかったものも多くあります。しかし、スクールバスの一般混乗や浜益滝川線乗合自動車の運行が大変喜ばれているほか、浄水場の改修が進められていること、そして区の将来に大きく貢献すると思われまます光ファイバーによるブロードバンド化の実現などが一定の目途が立ち、喜びの多い充実した2年間でもありました。市長を始め市議会の皆様のご大きなご理解とご支援、そして区民を始めこれまでの皆様のご支援に対し心からお礼を申し上げます。なお、10月からは赤間部長が浜益支所長として、支所業務全般を統括することとなります。これまでと同じくご理解、ご協力を賜ります様、心からお願い申し上げます。今日はよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## 3 議 事

### 【支所：渡邊課長】

それでは、これより議事進行について、神田会長の方をお願いしたいと思います。

### 【神田会長】

それでは進行の方を務めてまいりますので、議事進行にご協力をお願いいたします。始めに浜益区地域協議会における第2期2年間の総括について事務局より説明願います。

### 【支所：小島主査】

それでは、お手元に配付しております資料1浜益区地域協議会第2期2年間の総括について、という資料を基に私の方からご説明させていただきます。まず実績ですけれども、平成19年の10月から第2期目の地域協議会、現在の委員の皆様のご任期ということで始まりまして。その中で会議の開催ですけれども、平成19年10月から翌年3月までが5回、平成20年度分といたしまして延べ8回、この内には地域自治区振興事業の中のおうとう雨よけハウス整備事業に係る分についての書面協議の1回が含まれております。平成21年度、今回も含めまして4回、合わせて第2期の委員の皆様で計

17回の地域協議会を開催しております。その中で地域自治区振興事業の検討協議ということでございますけれども、平成20年度分といたしまして、次の3事業が挙げられております。1番目ですが、区民カレンダー制作事業、事業費579千円のうち基金充当が240千円、続きまして、スポーツフェスティバル開催事業が事業費106千円のうち53千円が基金を充当されております。3つ目ですが、浜益斎場緑化推進事業といたしまして、直轄事業といたしまして事業費788千円の全額が基金充当されております。続きまして平成21年度、こちら3事業ですけれども、引き続き同じく区民カレンダー制作事業、金額についても、これは20年度と同じです。続きまして、先日ふるさと祭りと同時間開催いたしました第4回になりますが、浜益いっぺ・かだれや林道ウォーク開催事業、これは計画段階ですけれども1,100千円の事業費につきまして基金を半額の550千円の充当を予定しております。3つ目ですけれども、先程も申し上げましたおうとう雨よけハウス、サクラノボの雨よけハウスですね、こちらの整備事業に事業費8,232千円のうちに基金を半額4,116千円の充当ということで予定してございます。その他第1期から第2期に引き継がれた4事業というのがあったのですけれども、全て仮称ですけれども、自治会支援制度モデルづくり事業、浜益区特産品づくり奨励事業、浜益産おいしいお米キャンペーン事業、それと浜益区グリーンツーリズム推進事業、この4事業につきましても協議を重ねてまいりましたが、具体的な事業提案までには至らなかったということでございます。2番目ですが、公共施設の有効活用についてということで協議検討を重ねてまいりました。これは平成20年4月から廃止となりました適沢コミュニティセンター、旧ふるさと塾の活用についての協議でした。これにつきましては、地域協議会だけではなく、より広い範囲での協議が必要との観点から区内各産業団体からなる活性化協議会、その後名称が決まりまして、はまます井戸端倶楽部という組織を立ち上げまして、当協議会からは委員5名を選出してしております。この中で具体的な活用方策を検討しておりますが、現時点におきまして女性有志グループにより地元食材を活用した軽食喫茶コーナーの運営を検討、事業計画、収支計画を検討中で、次年度平成22年度の早い段階からの開始を予定しているということでございます。その他ですけれども、石狩市浜益保養センターの営業時間変更の経過説明についての地域協議会からの意見を求められております。次に石狩消防署浜益支署庁舎移転計画についての報告。続きまして、北海道浜益高等学校の跡利用についての意見交換。それと浜益米の販売についての紹介、それから、それに基づきまして販売についての方法ですとかの検討についても協議しております。

次ですが、地域協議会への参加率でございますけれども、平成19年度10月からの19年度分は出席率64%、20年度につきましては67.5%、平成21年、今回を除く前回までの3回までの分につきましては55.56%、第2期の全体といたしましては64.17%の出席率というふうになっております。委員皆様の都合がなかなか揃わず、全委員が出席出来た会議は1回もございませんでした。2ページ目の方に移りまして、特に本年度21年度ですけれども、徐々に出席率が低下傾向になってきているということが感じられます。20年度の最終回ですけれども、欠席者が多く見込まれて当日の朝に延期を決定したケースもございました。

続きまして、広報活動ですけれども、第1期目より継続しております地域協議会だより、こちらの方は地域協議会の活動を区民の皆様にご覧いただくために、毎月月末の広報と合わせて、月に1回全戸配布をしております。これについては第1期からの継続事業です。

そこで地域協議会第2期の評価ということなのですが、第1期に引き続き、先程区長のご挨拶でもありましたが、前例のない地域自治区並びに地域協議会の活動ということで、各委員の皆様も事務局も勿論そうなのですが、どの様に進めていっていいのかという、その試行錯誤を続けながらも、ある一定の会議を開催することが出来ております。その中でも第2期の地域自治区振興事業として、区と区民とによる協働事業、これは先程の地域自治区振興事業でも説明しましたが、浜益斎場緑化推進事業を実施しております。地域協議会としての成果は地域意見の取りまとめですとか地域住民との協働推進、特色ある地域づくりにつきましては、未だ成果としてはっきりと見えてきていないのかなという感じがしております。最後に課題、問題点でもあるのですけれども、会議への出席率が低くて、あまり議論も活発してきていないということが、ちょっと課題として挙げられるかなと思います。勿論、委員皆様の都合の良い時間帯が少なく、日程や時間帯の調整などに私共もちょっと苦労しておりますが、皆様方もなかなかお仕事をもちの方、お忙しい中、なかなか大変だとは思っております。市からの報告事項を聞くだけのケースが若干多くなってきているのではないかなということも課題として挙げられるのかなというふうに考えております。また、各団体の意見や地域住民の意見を、それ

を吸い上げる様な仕組みがまだ充分に出来上がってきていないのではないかなということ、これはちょっと感じております。

この様な形で地域協議会第2期2年間の総括についてということでまとめさせていただきました。以上です。

**【神田会長】**

只今、事務局より説明ありましたが、地域協議会の開催状況を振り返りながら第2期2年間について総括として事務局より示されましたので、内容等を参考として意見を交換いたしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。何かご意見ございませんか？この総括につきまして？また、自分自身での総括でも結構です。

**【三浦委員】**

おうとう雨よけハウスは、今年度何軒で何棟行っていますか？

**【支所：渡邊課長】**

3農家4棟です。

**【神田会長】**

8月27日に開催された自治会連合会と市との協議の時に、市長の話では地域振興基金を今度ある程度拡大して使用してもいい様な発言があった。

**【支所：宮田区長】**

そうですね。一部ハード面、直接そういうものにも使える様な工夫をした方が良いのではということでした。

**【神田会長】**

本庁の部長方も驚いていた様だったけれども、そういう市長の考え方であれば、今後もう少し第3期以降、拡大して当協議会も考えてもいいのかなと思います。

**【支所：赤間部長】**

だから、地域協議会で色々なアイデアを出してもらえれば、自治懇話会の中であの様な説明をしているから、その中で上手く、また事業の見直しが出来るともあるし、いわゆる地域住民の生活向上のためであれば、それに充当してもいいのではないかという話はしていましたからね。だから、あくまでも地域協議会である程度意見を当方から挙げていく、そういう様な仕組みを作っていければ色々な面で、また事業が拡大されるのかなという様な感じはします。

**【神田会長】**

何か市長との自治懇話会の時には、市長は積極的な発言をしていたからね。

**【支所：宮田区長】**

そうですね。

**【三浦委員】**

そうしたら、旧ふるさと塾の改修工事も含まれるの？

**【支所：宮田区長】**

考えられないこともないです。普通の予算で付けづらいものである、補助金にもならない、起債でも対象にならないものがあるのですよね。そういったものに充当できると思うのです。その辺を考えていかなければと思います。

(休憩)

**【神田会長】**

そのほか何かありませんか？折角の機会なので。

**【神田会長】**

声が無い様ですから、事務局案を基にして各委員から出された意見等を踏まえて、浜益区地域協議会の第2期2年間の総括としてまとめさせていただきたいと思っておりますが、よろしいですか？

**【三浦委員】**

はい。いいです。

**【神田会長】**

それでは、その様にまとめさせていただきます。次に第3期への引継ぎ事項について事務局より説

明願います。

**【支所：小島主査】**

引き続きまして資料2の方ですけれども、地域協議会第3期目における検討事項(案)というふうに書いているのですけれども、前回7月の第3回目の地域協議会の時に委員の皆様からいただいた地域自治区振興事業の提案、それとその時に皆様から出されました意見を基に私共の方で検討事項の柱を何本か挙げさせていただいております。

まず1番目ですけれども、高校通学支援、これにつきましては現在、道教委の通学、下宿補助というものが5年間予定されているのですけれども、それが終了後のそれに替わる市独自の補助の検討が必要なのではないかなという声がありましたので、その項目、それと併せまして、現在区外の高校に通学している高校生を対象とした新たな交通システムの検討も必要なのではないかなという声を皆様からいただきましたので、これにつきましては3期目においての検討材料なのではないかなというふうに事務局では考えています。ですが、基本的に高等教育なものですから、義務教育ではないというところがございまして、その支援の妥当性も併せて検討されなければならないのかなというふうに考えてございます。

続きまして2番目ですけれども、特産品づくり、これにつきましては、第1期目から第2期目への引継事業でもあったのですけれども、浜益区特産品づくりというのがあったのですけれども、やはりこれからは区の特産品、農産物ですとか海産物、豊かな食材を活かした特産品ですとか、加工品、地元の素材の開発が求められているのではないかなという気がしてございます。勿論、それを作るだけでなく、新たな販売システムの構築といいますが、旧適沢コミセンでの販売などもちょっと検討されるべきではないかなと考えております。

3番目ですけれども、資料館の整備構想ということで、前回、資料館の整備事業とそれから資料室の創設という項目があったのですけれども、それを一つにまとめまして、今現在ある浜益郷土資料館の改修の検討、これにつきましては現在地での改修がいいのか、それとも移転も含めた新築、既存の施設の転用改修がいいのか、それらを含めて検討されるべきではないかなというふうに考えております。その前段としまして、勿論、整備構想の策定というものも必要となってくるのかなというふうに考えております。

4番目、住宅整備なのですけれども、現在空き住宅となっております市の職員住宅や教職員住宅の利活用の検討ということで、前回ご提案いただきました移住者向けですとか、高齢者向けの共同住宅ですとか、勿論、1次産業の労働力確保ということを観点とした住宅の活用というものも当然検討されるべきではないかなというふうに考えてございますが、これにつきましては地域自治区振興事業に該当するのかなということも併せて検討しなければならないというふうに考えてございます。

5番目といたしまして高齢者支援としまして、支所職員の地域担当制の導入の検討、それから特別養護老人ホームの増床、配食サービスの拡充等のサービス拡充の検討、それに伴う様な人材センターの創設なんかも必要ではないかなというふうに考えてございます。

6番目については、皆様からご意見があればと思ひまして、その他ということで項目だけ載せさせていただいております。

以上です。

**【神田会長】**

只今、事務局より地域協議会第3期への引継ぎ事項についての説明がありましたが、次期協議会へ引継ぎいたします事業等について、ご質問やご意見がございましたらお受けいたします。何かございませんか？

**【神田会長】**

ちょっといいですか？

**【支所：小島主査】**

はい。

**【神田会長】**

の高校通学支援、この様に概要が書かれていますが、その中で事務局の方では、高校は義務教育ではないので懸念があるということで話されておりましたけれども、それを聞いて私は、今、民主党政権になった時に、もう公立高校の授業料を補助するだとかそういうことが出ていますよね。今日もテレビでやっておりましたけれども、そして私立の高校に対しても、やっぱり補助をするという様な

制度を構築する様な考えになっていますから、そういう段階ではやはり浜高が廃止されて、今度浜益から石狩や札幌へ高校に通うと思うのですけれども、やっぱりそうなると下宿などでなく親元から通える様なバスを出すだとか、そういうことについては当然考えてもいいのではないのでしょうか。もうそういう時代になってきていますよ。もう、今回は公立高校の授業料の補助は完全に実施されるのではないだろうか。

**【三浦委員】**

それは、金額に上限がある様だが、それをずっと続けるなら、例えば通学に困難な地域の人もいればそれはやっぱり下宿だとか、部活に入るといことになればやっぱり下宿が何かしないと、その生徒はね。ただ授業だけを受けて3時か4時に帰ってくるのであれば通学が可能かもしれないが、やっぱり学校に入った以上は、それ相応の生徒がいれば部活にも入るだろうし、そうなれば下宿ということになる。

**【神田会長】**

だけど、何人くらいいるか分からないけれど、朝1便のバス、その子どもが通う時間帯にバスを区から出す、札幌市内なら市内まで連れて行く、そして帰りは、その1便と2便を出せる様な、そのくらいのことを考えてもいいのではないだろうか。そうなれば結局は部活をやって遅くなる子は…。それでもある程度の時間帯は設定しておかなければだめだけれども、そういうふうにして…。ほとんど部活をやらなくてもすぐ帰ってくる帰宅部はいないと思う。今は何かしらの部活をやるのがほとんどで…。だから、その様なことを考えてもいいのではないだろうか？

**【佐々木委員】**

道教委でやる分については、それはもう5カ年ということで決まっているけれども、石狩市独自というか、そういう様な方策というか、浜益高校が無くなるのだから親に任せて”あなた達何とかしなさい”というのではなくて、何らかのサポートをしてあげないと。実際に声も聞いているから。これから高校受験を向かえる親からね、何か無いのかということで。

**【神田会長】**

道教委は何年間か？5年間か。だから道教委とセットで最初から通学費の補助なんかじゃなく通学費の補助を出す分を道教委も出して市と連携して、1便を朝に出して送り届けて、そして帰りは2便出す。そういう様なことで道教委だって下宿代を出す考えがあるでしょ。だから、それをそういう制度にしてしまえばいいのではないだろうか。やっぱりそういうことが可能かどうかは分からないが、そういうことで働き掛けることは、黙っていないでやった方が…。そうすれば永久的なものになっていくのではないだろうか。ただ5年間だけということではなくてね。

**【白井委員】**

いっそ、浜益寮みたいなものを作ってはどうだろう？

**【神田会長】**

それが不可能なのであれば寮みたいなものをね。

**【田中委員】**

札幌辺りに？

**【白井委員】**

石狩でも札幌でも。石狩であれば通えるでしょ。

**【田中委員】**

ちょっと考えたのですけれども、札幌の高校へ行きますと朝の時間に合わせるとかなり早い時間に子ども達が家を出なきゃだめでしょ。白井さんが言ったような方法を…。

**【白井委員】**

ここから出た子ども達は、すごく仲がいいのです。どこに行ってもお互いに連絡を取って全く違う高校に行っても端と端の高校に行っても会ったりしている。

**【神田会長】**

それは、どういうふうな方法がいいのかは、これからの考えで、やっぱりそういう様なことは検討する機会を設けた方がいいのではないか。ただ時間的なものもあるけれども、本来であれば親元から通うことが出来れば安心だし、そして今まで濃昼からは朝のバスで通っていた子どもがいるでしょ。そして帰りは厚田までのバスで帰ってきて、そして親が厚田に濃昼から迎えに行き、それで高校を卒業した。だから、そういう例がない訳でもない。

**【佐々木委員】**

厚田区の子供達は普通に通っているから。高校にバスで。それで石狩翔陽、石狩南、頑張ったら篠路、拓北、あの辺まで行けるから。今、実際に二人の男の子が通っていますけれど、相当しんどいはずだと思います。それで帰りのバスも1本だから、大体4時くらいに帰る。

**【白井委員】**

ホームルームが終わってすぐですものね。

**【佐々木委員】**

厚田区までは、結構バスがある。

**【神田会長】**

だから、公設のバスではなく、やっぱり地域の事情を勘案して道教委だって5年間のそういう措置をやってくれるのであれば、それとセットで市でもやって上乘せしてマイクロバスでもいいでしょ。浜益から行くくらいなら。それで、行くのを1便。行くのは時間帯が一緒だから出してもらって、そして帰りは2便くらいやってもらう様なそういうことも考えてもいいのかなと思う。そしてそれがあまりにもきついということであれば、やはり白井さんが言った様なことを考えればいい。そういうことを検討する必要がある。前に白井さんが言った様なシステムが市町村共済組合で、そういう役場職員の子供達を全道から収容できる、そういう寮をやっていた。札幌で。そしてそれは市町村職員の子供もさん方を対象に札幌に出て来て勉強したい子供達のための寮を設けた。

**【支所：新井課長】**

廃止になりました。

**【神田会長】**

廃止になった？そういうものがあつたのです。だから、やっぱりそういう様な面では、こういう地域から高校もなくなって父母の負担がひどいということであれば、そういうことも考えることは必要ではないですか。バスにするか寮にするか。

**【支所：宮田区長】**

色々なことが考えられると思うのだけれど、そういうことを集中して話し合うことはいいことだと思うのですけれど、ただ夢物語に…。あれば勿論いいのだけれど、現実性のない夢物語。ただ要求すればいいということではないと思うのです。その中にどんな問題や課題があるのかということもきちっとその話し合いの中で話し合っ、この課題を解決するには、私達はこういうことを考えているのだけれど、という様なことを併せながら市の方に持ち上げていくというか…。

**【佐々木委員】**

バスを走らせる上で一番気にしているのが中央バスなのです。中央バスは今回頑張っ、この路線を存続しますという経緯もちょっとあつて、実際には2名の生徒なのですが、地元の人若干は利用しているとは思いますが、その辺の兼ね合いもちょっとあつて、その辺を考えていかなければならないと思う。今、区長が言った様にこれから協議会の中で色々方法を探っていくということは必要。

**【支所：赤間部長】**

北から東からとなると朝の相当早い便、ちょっと色々シミュレーションした中では、朝4時半頃に出なければ厚田の接続するにはかなり…。そして帰ってくるには最終が午後7時40分で、仮にそこで引継ぎしてまた2時間という様な…。

**【神田会長】**

まず、そういう具体的な詳細なものではなくても、やっぱりそういう様なことで高校の通学支援ということは考えなければだめだということは皆さん了解ですね。

(休憩)

**【支所：宮田区長】**

住民の間にそういった声があるということを経済協議会が受け止めて話し合うということは大事だと思います。

(休憩)

**【神田会長】**

これは、そういうことでその時に色々な方法を検討するというので、高校通学支援は、もうよろしいですね。次期3期目における検討事項ということで申し入れ事項。

そのほかで何かありませんか？何かありましたら発言をお願いいたします。

**【佐々木委員】**

前に戻りますけれども、資料の実績のその他で、1期目から引き継がれた4事業がありますけれども、これは、どうするのですか？今、ここにある資料の特産づくりの部分だと浜益区特産づくり奨励事業もあるし、浜益区グリーンツーリズムというのは実際に、もう動き出している部分もありますから、そういうのをもう少し精査した方がいいのではないですか？

**【支所：小島主査】**

この4事業につきましては、第1期から第2期への引継ぎ分ということで4事業挙げられているのですけれども、自治会支援制度モデル事業につきましては、高齢者の方や障害のある方々についてのサポート体制みたいなもので、低額の有償ボランティア制度みたいな形で雪投げですとか買い物代行だとか家事などという様な案だったのですけれども、現在、社会福祉協議会の方でやられている雪投げ除雪サービスですとか配食サービスとかということと大分重複する部分があるものですから、それにつきましては、ちょっと調整が必要なのではないかなというところで、まずこれは終わっているのです。

特産づくりにつきましては、農協、漁協、商工会などで地元の食材を使って、ふるさと祭りか何かで一つのメニューを作って出して好評だったら広げていければいいなということでの案だった様なのですが、これについては、なかなか具体的な詳細の方まで入り込めなかったということが実際でございます。

それと浜益米おいしいお米キャンペーンにつきましては、浜益全体で浜益米を飲食店で浜益米を使っているキャンペーンということで案を出したのですが、後半の方で浜益米の販売ということで色々皆様から色々な方法、ホクレンなどに色々で紹介したりして色々な方法があったのですが、結果的には浜益産米の販売については、どうしても価格に上乗せになってしまうということで、それを高くても売れる小売店が出てくるのかどうなのかという課題にぶつかっているのです。そのおいしいお米キャンペーンの飲食店で浜益米を統一して使いましょうということについても具体的なところまでは検討に至っておりませんでした。

グリーンツーリズムについては、名称と提案した中身がちょっと違うのですが、実は浜益特区の”どぶろく”というお話だったのですけれども、お酒につきましては酒造部会の方で、今回新たに”どぶろく”を2種類作っておりますので、これについては地域振興事業ではなく独自にやられているということで、ある一定の成果が出たのではないかなというふうに考えてございます。

なかなか詳細の検討に至らなかったものがあるので、これを3期目で更に深く掘り下げてもちっと難しいところがあるのかなと実は事務局では考えていまして、今回あえてこの中には載せていないというのが実情でございます。

**【支所：渡邊課長】**

いずれにしても、今回3期目に引き継ぐ検討事項の中に、こういった部分と重複するの含まれておりますので、そういった部分を含んで3期目の方に検討事項として引き継ぎたいというふうに考えております。

**【神田会長】**

そういう事務局の説明がありましたけれども…。

**【支所：赤間部長】**

だから、あまり項目があってもだめで、ある程度次回からは、仮に資料2の中では3期目における検討事項（案）で5項目ありますけれども、これを全部やろうとしてもなかなか難しいですから、これからいわゆる次期の委員さん方で、この5項目からある程度絞って2点ぐらいあるいは3点まで絞って、その内のいくらかでも実現化にしていくという、導いていくという、そういう筋道をつける方法がいいのかなということ。だから、今議論になっている高校通学支援は大きなテーマになってくるのかなという様な感じがいたしております。



(休憩)

【神田会長】

そのほかに何かありませんか？

(休憩)

【神田会長】

それでは、只今協議いただきました計5件について、次期地域協議会へ引継ぎ、次期協議会において更に検討を重ね事業化を目指していただくことといたしたいと思いますが、いかがでしょうか？

【佐々木委員】

異議なし。

【神田会長】

異議なしという声ですので、それでは計5件について、次期地域協議会へ引継ぎし、次期協議会において更に検討を重ね事業化を目指していただくことといたします。

その他で事務局、何かございますか？

【支所：新井課長】

私の方から1件報告事項を報告させていただきます。浜益高等学校の跡利用についてでございます。このことについては、既に、7月24日開催の、浜益区地域協議会において、皆さん方のご意見をお聞きしたところであります。その後、7月30日に浜益小・中学校の保護者並びに教職員を始め区民の皆さん方を対象に「浜益高校閉校後の意見交換会」を開催しましたので、報告をいたします。意見交換会での主な質問並びに意見として、平成23年3月に、浜益高校閉校後、直ぐに4月から浜益中学校として使用が可能か、また高校への移転に向けて消耗品や備品等、今から事前調査が出来ないか、との質問がありました。これに対して、道が浜益高校閉校後において使用しないことが前提であります。浜益高校は耐震化診断がなされていないので診断結果により移転スケジュールに懸念があること、また事前の消耗品並びに備品の調査については、中学校と高校の交流の中で情報収集をしていくのがベストでないかとの回答が市教育委員会よりありました。更には浜益高校の閉校に伴い浜益高校教員住宅を浜益小・中学校の教員住宅として利用できないかとの質問がありました。これについては道に住宅使用料を直接支払って使用する形になるのではとの回答が市教育委員会からあり、当日の意見交換会において閉校後の浜益高校施設を浜益中学校として利用することについての確認をいたしました。なお、地域協議会、更には区民の皆さん方を対象にした意見交換会においての意見を踏まえて、今月9日、市教育長から北海道教育長あてに「北海道浜益高等学校の譲渡に関する要望書」を提出しております。私の方から以上でございます。

(休憩)

【神田会長】

事務局、ほかにありませんか？

【支所：小島主査】

ありません。

【神田会長】

それでは、本日予定されておりました案件については全て終了いたしました。ありがとうございました。

## 5 閉会

【神田会長】

以上をもちまして、第4回浜益区地域協議会を閉会いたします。ご苦労様でした。

平成21年10月13日議事録確定

石狩市浜益区地域協議会  
会長 神田 一 昭